

# 2019年3月期第2四半期決算説明資料

2018年4月～2018年9月

2018年12月  
株式会社セレスポ  
(証券コード：9625)

**セレスポ**

© 2018 CERESPO CO., LTD.

## 1. 会社概要

## 2. 第2四半期決算説明および通期業績見込み

## 3. 中期経営計画の実施施策

### 参考情報

- ※ 本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。さまざまな変化によって実際の業績と記述内容が異なる可能性があります。将来予測に関する記述に全面的に依拠することのないよう、ご注意ください。
- ※ 金額等数値は表示単位未満切り捨て、比率は小数点第一位未満を四捨五入で表示しております。

# 1. 会社概要

---

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 社名の由来 | セレスポ (CERESPO) = Ceremony & Sports |
| 設立年月日 | 1977年7月21日                         |
| 事業領域  | イベント、スポーツ大会、プロモーション、式典、レクリエーション    |
| 事業内容  | 企画、制作、会場設営、運営、進行                   |

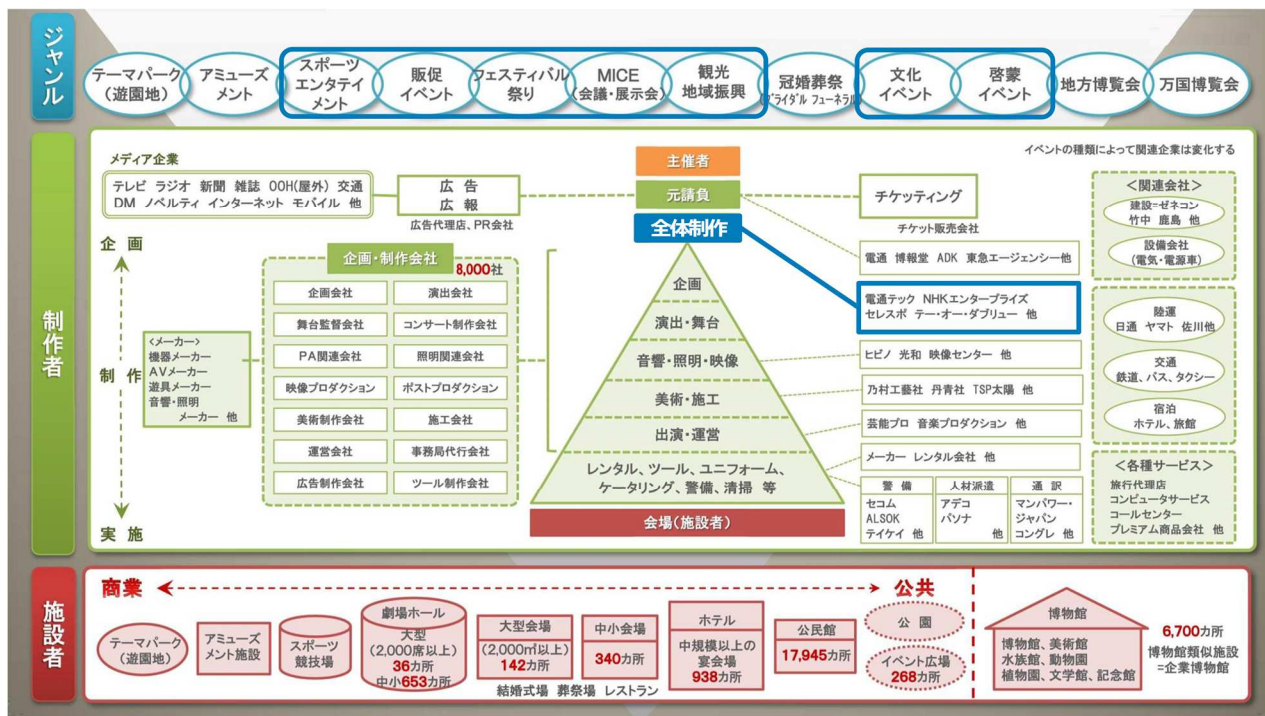
- 社名の由来は「セレモニー・アンド・スポーツ」を省略したものだが、実際にはあらゆる種類のイベント、スポーツ大会などを受注している。
- 創業40年が経過し、今ではイベントやスポーツの世界では知名度を獲得している。
- ただし、B to Bの黒子企業なので、一般的な認知度は十分とは言えない。

経営理念

イベントを通じて  
自らを含む周囲の幸福を  
実現し、笑顔のある明るい  
社会づくりに貢献する。



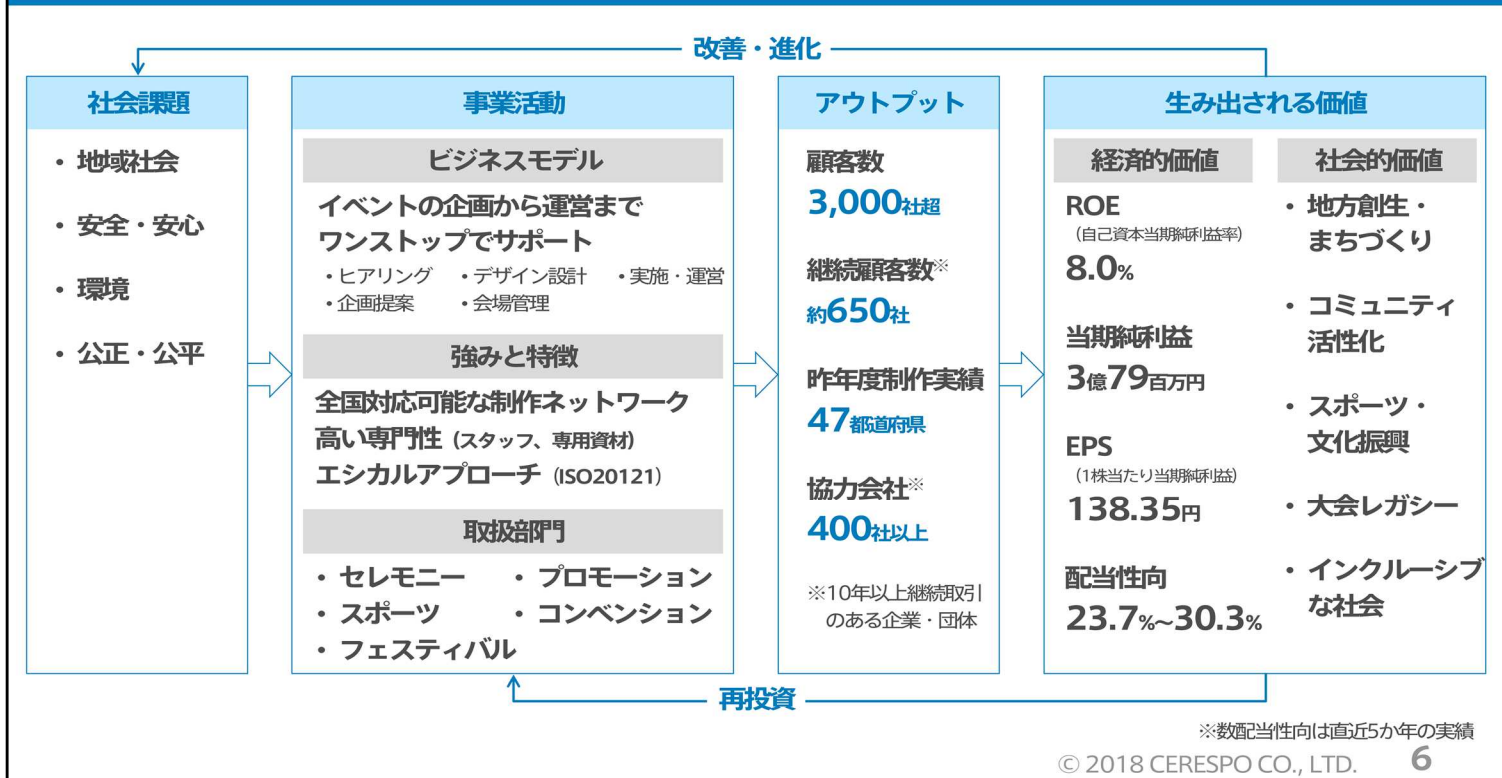
- 当社の経営理念は、「イベントを通じて笑顔のある明るい社会をつくる」こと
- 各ステークホルダーとの交流を強く意識している
- 自分たちから先に周囲にメリットを提供して、その自然な見返りを期待して、幸福の連鎖を作るという考え方
- この考えを図で表して「セレスポの幸福」と名付けた
- 「セレスポの幸福」を作成するために、社員のほぼ全員にヒアリングを行い、その意見を取り入れている
- 社内では、この理念に基づくことが自然に実践されている



目白大学 岡星教授作成による業界マップを基に説明

© 2018 CERESPO CO., LTD.

- この図は、イベント業界の全体像を表している  
(原図の作成はイベント学を研究されている、目白大学の岡星教授)
- 一番上のジャンルのところで四角く囲んである部分が、当社が扱っている業務
- 当社の役割は全体制作であり、イベント制作に必要な各種機能を束ねてイベントを実施できると位置づけられている
- 2017年の国内イベント関連消費額は16兆円ほど 出典：(一社)日本イベント産業振興協会「平成29年国内イベント消費規模推計」
- 今後、さらに成長することが予測されている



- ・ この図は当社のビジネスモデルとそれによりどのような価値が生まれているかを表している
- ・ 当社のビジネスの基本は、各種イベントの企画から運営までを請け負うこと
- ・ それらのイベントに当社ならではの付加価値をつけることで、他にはない独自性を発揮している

### 強みと特徴

- ・ **全国対応可能な制作ネットワーク**： 当社は北海道から九州まで展開しており、全国に協力会社があるので、全国を巡回する大型案件を取りやすい
- ・ **高い専門性**： 顧客の目線で課題を見つける「顧客起点」の実践と「現場力（現場での施工力、運営力）」を発揮することで品質の高いサービスを提供する。とくに現場力は、当社の企業力の土台と考えている
- ・ **エシカル・アプローチ**： サステナビリティ、ユニバーサルといった道徳的、倫理的な考え方をイベントの中でかたちにすること
- ・ **ISO20121**： イベントについてのサステナビリティの国際規格。日本では当社のみが企業全体での認証を受けている。この規格をふまえた提案がかたちになると、それまでになかった社会的価値が生み出される

## 顧客層と取扱部門が幅広く、トレンドに対して柔軟に対応可能

営業面：さまざまな顧客ニーズの集約、顧客を起点とした多様なイベントの広がり

制作面：部門に特化したノウハウの蓄積、イベントを起点とした新規顧客開拓

顧客数

**3,000社超**

|               | セレモニー | スポーツ | フェスティバル | プロモーション | コンベンション |
|---------------|-------|------|---------|---------|---------|
| 官公庁<br>自治体    | ○     | ○    | ○       |         |         |
| 競技団体          |       | ◎    |         |         |         |
| 広告代理店<br>制作会社 |       |      | ○       | ◎       | ○       |
| 建設会社          | ◎     |      |         |         |         |
| 他民間企業         | ○     |      | ○       | ○       |         |
| 団体・学校         | ○     |      |         |         | ○       |

◎：受注の関連性が特に強い、○：受注の関連性が強い

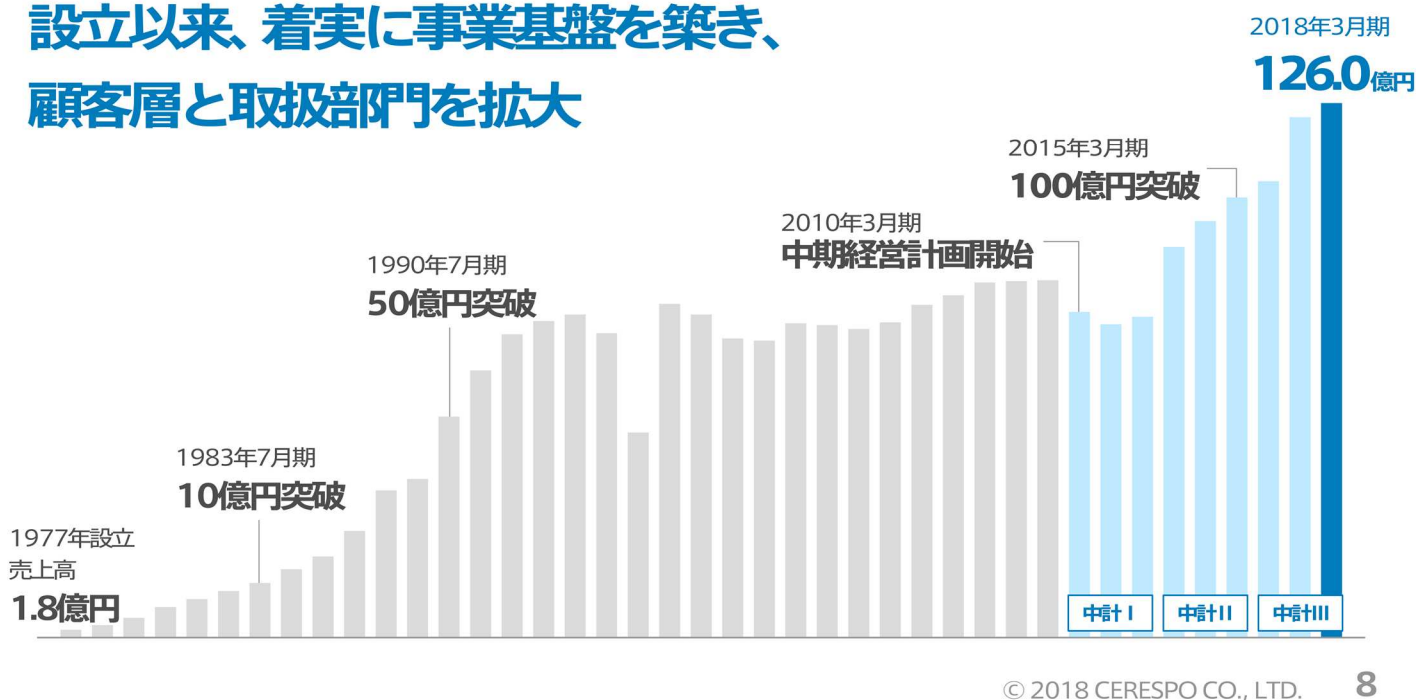
© 2018 CERESPO CO., LTD.

7

- スライドの表頭の部分にセレモニー、スポーツとあるのが当社の取り扱うイベントの種類
- 表側にある顧客の種類も官公庁から、団体・学校とさまざまな顧客層がいる
- この事業と顧客の組合せが大変バラエティに富んでいるので、社会変化から生じるリスクがうまく分散されている



## 設立以来、着実に事業基盤を築き、 顧客層と取扱部門を拡大



- このグラフは創業以来の売上高の推移
- 2008年のリーマンショック後、業績は低迷したが、それをきっかけに経営理念を変えて、2010年からは3年毎に中期経営計画を作成して、会社として成長を志向することを明確にした
- この数年、いろいろと新しいことにトライしており、スポーツビジネスへの参入もその一環
- 中期経営計画の導入以来、前期までで売上は60%増、営業利益は13倍、株価は6倍、配当は3.4倍になった

## 2. 第2四半期決算説明および通期業績見込み

---

1. 決算のポイント

- **第1四半期に続き、増収増益を維持**
- **スポーツ・フェスティバル部門の大型案件の売上寄与も受注件数は減少**

2. 経営成績

|        | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 増減額 | 増減率  | 主な増減要因                                   |
|--------|----------|----------|-----|------|--|
| 売上高    | 5,010    | 5,287    | 277 | 5.5% | ・ 受注数減少も、大型案件が売上高を牽引し増収                  |
| 営業利益   | △12      | 35       | 47  | —    | ・ 労働時間の削減により労務費が減少<br>・ 資材価格の高騰により材料費が上昇 |
| 経常利益   | △3       | 40       | 44  | —    | ・ 外注費の上昇等により、売上原価率は上昇                    |
| 四半期純利益 | △18      | 8        | 27  | —    | ・ システム関連の減価償却等により販管費が上昇                  |

© 2018 CERESPO CO., LTD. 10

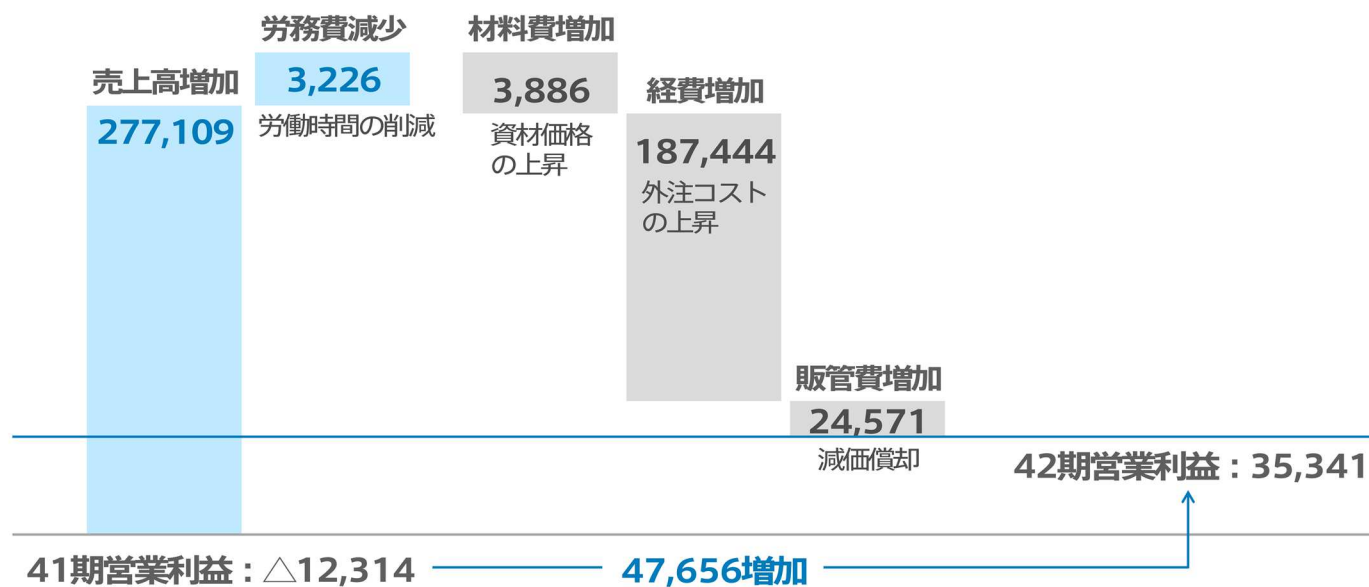
- 今期、第2四半期までの結果は順調に推移
- 売上と各段階での利益はすべて前期を上回っている

# 営業利益増減要因

単位：千円

## 増加要因

## 減少要因



© 2018 CERESPO CO., LTD. 11

### 増加要因

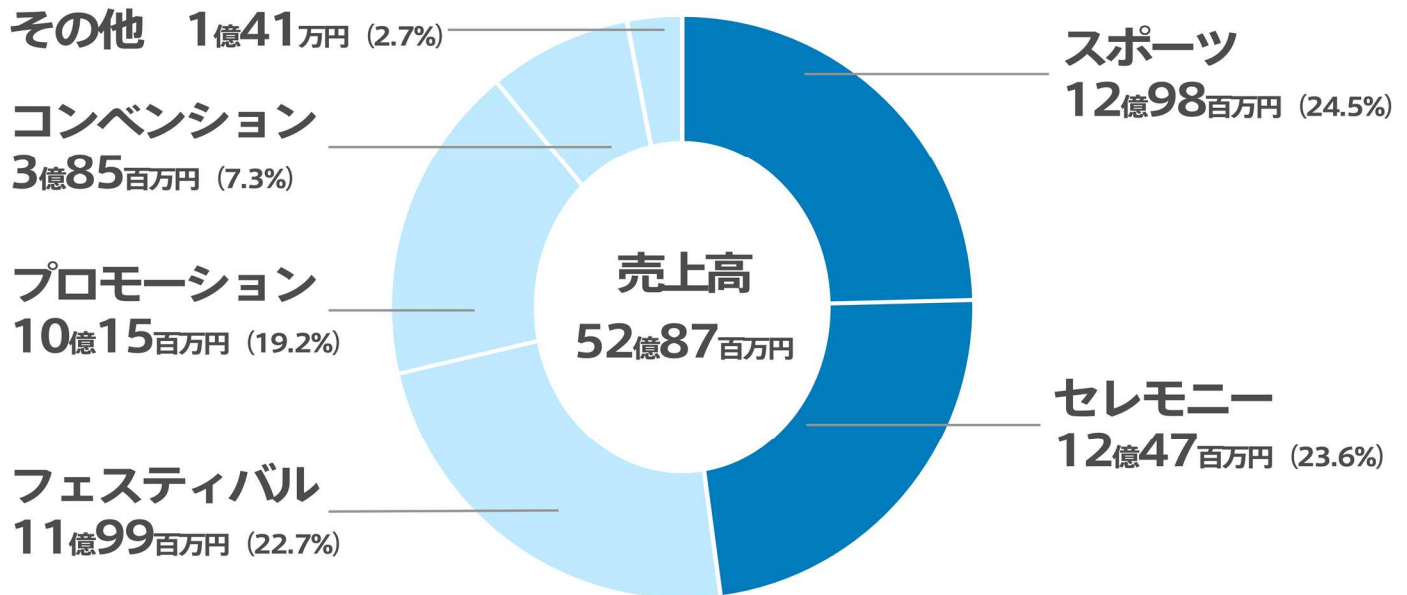
- ひとつは売上高の増加であり、もう一つは労務費の減少
- 労働時間に着手し始めた4年前と比べると、残業時間は28%削減

### 減少要因

- 材料費、諸経費、販管費の増加

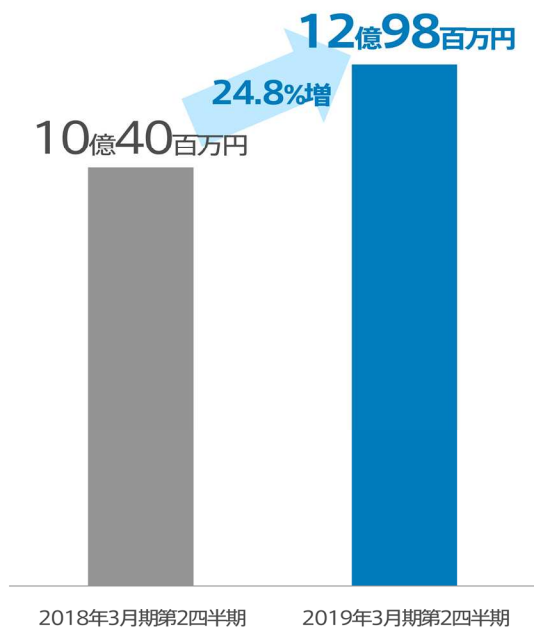
### 営業利益

- 営業利益は4,765万円の増益



© 2018 CERESPO CO., LTD. 12

- 当社が設定しているイベント部門ごとの売上高とその構成比
- 第2四半期までの1位はスポーツ、次がセレモニーで、2つ合わせて約半分



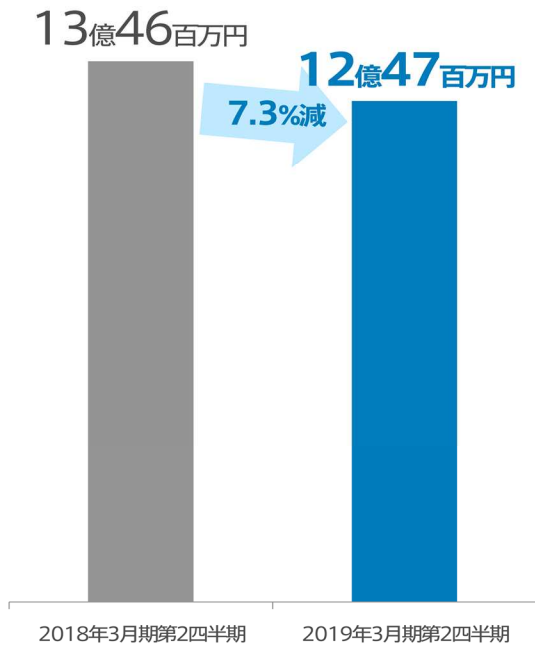
#### 主なポイント

- **競技大会等の大型案件が牽引**  
日本陸上競技選手権大会、世界トライアスロンシリーズ横浜大会等
- **部門全体の案件受注数が増加**

#### 業績変動要因

- **2019年、2020年の国際競技大会における大会運営に関する受注動向**

- スポーツは大規模な競技会、国際大会、日本選手権などの運営
- 今期は、陸上競技の日本選手権など、受注件数が増えている
- 現在、6競技の日本選手権に携わっている
- 2019年、2020年に巡って来る千載一遇のチャンスを生かして、できるかぎりの収益を獲得する計画をすすめている



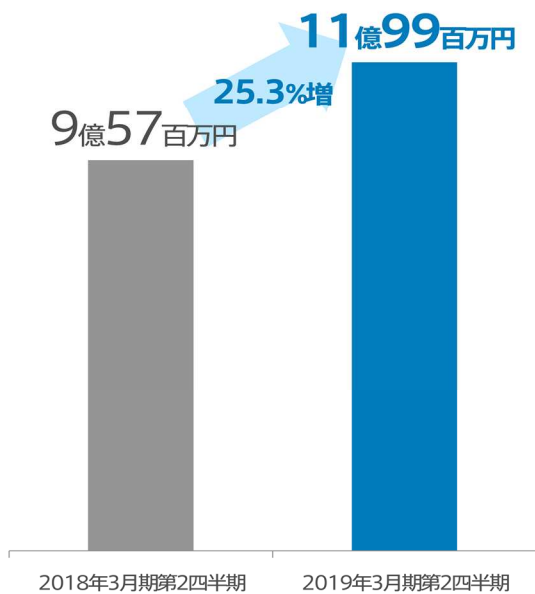
#### 主なポイント

- 行幸啓行事の受注数が増加
- 記念式典を中心に大型案件が増加
- 建設式典は案件受注数が減少

#### 業績変動要因

- インフラ整備、都市開発等の動向
- 皇室ご臨席行事の受注動向

- セレモニーは、天皇皇后両陛下がご臨席される行幸啓行事から一般的な記念式典や建設式典までを扱う



#### 主なポイント

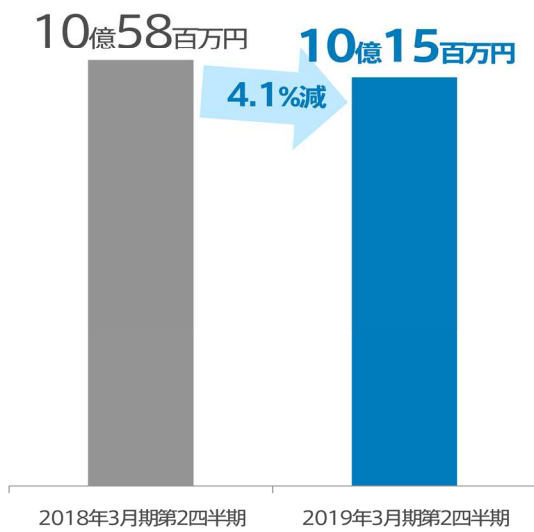
- 地域振興イベントを中心に大型案件が増加
- 請負範囲の拡大に伴い、案件単価も上昇

#### 業績変動要因

- 地方創生に基づいた地域活性化やインバウンド観光振興の動向

- フェスティバルは企業の納涼祭のようなものから、複数の市にまたがるような大掛かりな地域イベントまでを扱っている
- この11月にも関東で15万人の観客のあった企画を受注した





### 主なポイント

- 広告宣伝、販売促進イベントは件数減少も案件単価は向上
- プロモーションは昨年まで開催された大型案件を補填できずに売上減少

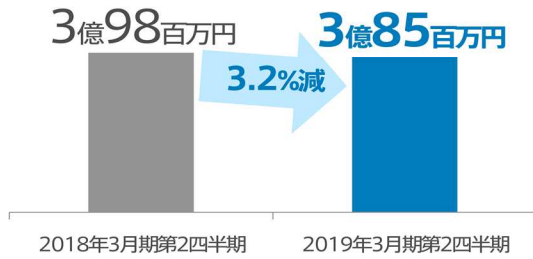
### 業績変動要因

- 国際競技大会に関連するプロモーション・PRイベント等の動向
- クロスメディア販促戦略におけるイベント活用の動向

- プロモーションは、企業の販売促進のためのイベントが中心となる
- 全国展開の強みを生かし、全国キャンペーンなどを扱っている

主なポイント

- 展示会・見本市は大型案件の受注が増え、件数・案件単価ともに上昇
- 会議イベントは件数減少により売上高が減少



業績変動要因

- MICE誘致の動向
- 2019年、2020年の展示会施設等問題の動向

- 既存顧客がコンベンションを実施する際に対応している
- 売上全体の中での影響は小さい

### 主なポイント

- 選挙関連案件の減少
- 日光における指定管理事業の終了

### 業績変動要因

- 国内政治の動向
- 自然災害をはじめとする危機管理に関する動向



- 日光の指定管理事業が終了したことで売上が下がっている
- 選挙等で毎年のように細かな増減がある
- 売上全体の中での影響は小さい

| 単位：百万円<br>下段は対売上高比 | 2018年3月期<br>第2四半期 | 2019年3月期<br>第2四半期 | 増減額 | 増減率            |
|--------------------|-------------------|-------------------|-----|----------------|
| 売上高                | 5,010             | 5,287             | 277 | 5.5%           |
| 売上原価               | 3,430<br>68.5%    | 3,635<br>68.8%    | 204 | 5.9%<br>0.3pt  |
| 売上総利益              | 1,579<br>31.5%    | 1,651<br>31.2%    | 72  | 4.6%<br>△0.3pt |
| 販売費及び一般管理費         | 1,591<br>31.8%    | 1,616<br>30.6%    | 24  | 1.5%<br>△1.2pt |
| 営業利益               | △12<br>—          | 35<br>0.7%        | 47  | —<br>—         |
| 経常利益               | △3<br>—           | 40<br>0.8%        | 44  | —<br>—         |
| 当期親会社利益            | △18<br>—          | 8<br>0.2%         | 27  | —<br>—         |

| 単位：百万円         | 前第2四半期<br>会計期間<br>(2017年9月30日) | 当第2四半期<br>会計期間<br>(2018年9月30日) | 増減         |              | (参考)<br>前事業年度<br>(2018年3月31日) |
|----------------|--------------------------------|--------------------------------|------------|--------------|-------------------------------|
|                |                                |                                | 額          | 率            |                               |
| <b>資産の部</b>    |                                |                                |            |              |                               |
| 流動資産           | 3,485                          | 3,918                          | 433        | 12.4%        | 3,177                         |
| 固定資産           | 4,525                          | 4,537                          | 12         | 0.3%         | 4,580                         |
| <b>資産合計</b>    | <b>8,010</b>                   | <b>8,455</b>                   | <b>445</b> | <b>5.6%</b>  | <b>7,758</b>                  |
| <b>負債の部</b>    |                                |                                |            |              |                               |
| 流動負債           | 3,304                          | 3,406                          | 102        | 3.1%         | 2,618                         |
| 固定負債           | 235                            | 237                            | 2          | 0.9%         | 239                           |
| <b>負債合計</b>    | <b>3,539</b>                   | <b>3,643</b>                   | <b>104</b> | <b>2.9%</b>  | <b>2,857</b>                  |
| <b>純資産の部</b>   |                                |                                |            |              |                               |
| 株主資本           | 4,492                          | 4,803                          | 311        | 6.9%         | 4,890                         |
| <b>純資産合計</b>   | <b>4,470</b>                   | <b>4,811</b>                   | <b>341</b> | <b>7.6%</b>  | <b>4,900</b>                  |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>8,010</b>                   | <b>8,455</b>                   | <b>445</b> | <b>5.6%</b>  | <b>7,758</b>                  |
| <b>自己資本比率</b>  | <b>55.8%</b>                   | <b>56.9%</b>                   |            | <b>0.8pt</b> | <b>63.2%</b>                  |

© 2018 CERESPO CO., LTD. 20

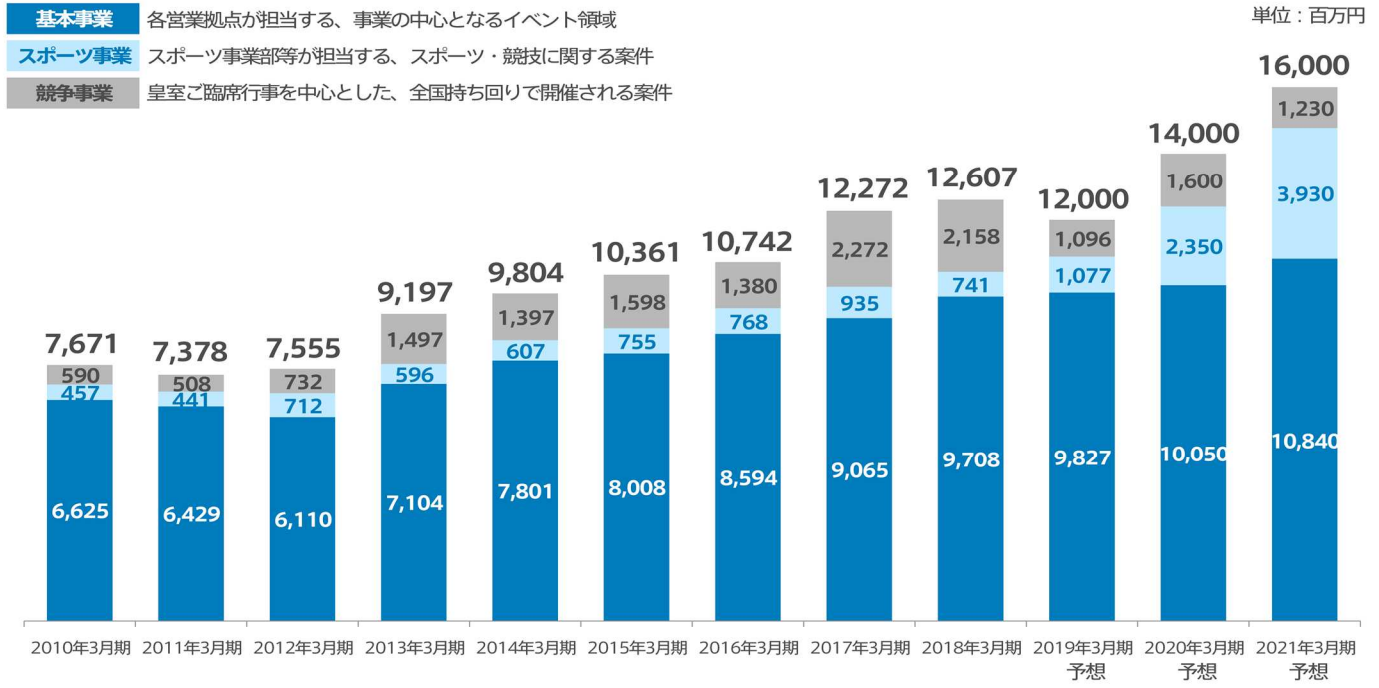
- 毎年、第2四半期から第3四半期にかけて、受注が増えることから、運転資金の借入れが増える
- 前年9月末時点と比較しても大きな変化はない

|   | 2018年3月期     | 2019年3月期     |
|---|--------------|--------------|
| <small>単位：百万円<br/>下段は：対売上高比</small><br><b>売上高</b> | 12,607       | 12,000       |
| <b>営業利益</b>                                       | 593<br>4.7 % | 410<br>3.4 % |
| <b>経常利益</b>                                       | 608<br>4.8 % | 420<br>3.5 % |
| <b>当期純利益</b>                                      | 379<br>3.0 % | 270<br>2.3 % |
| <small>単位：円</small><br><b>配当額</b>                 | 41.0         | 42.0         |
| <b>配当性向</b>                                       | 29.6 %       | 43.3 %       |

- 通期業績については、売上・利益ともに前期に届かず、減収減益となる予想（売上高：120億円、営業利益：4.1億円）

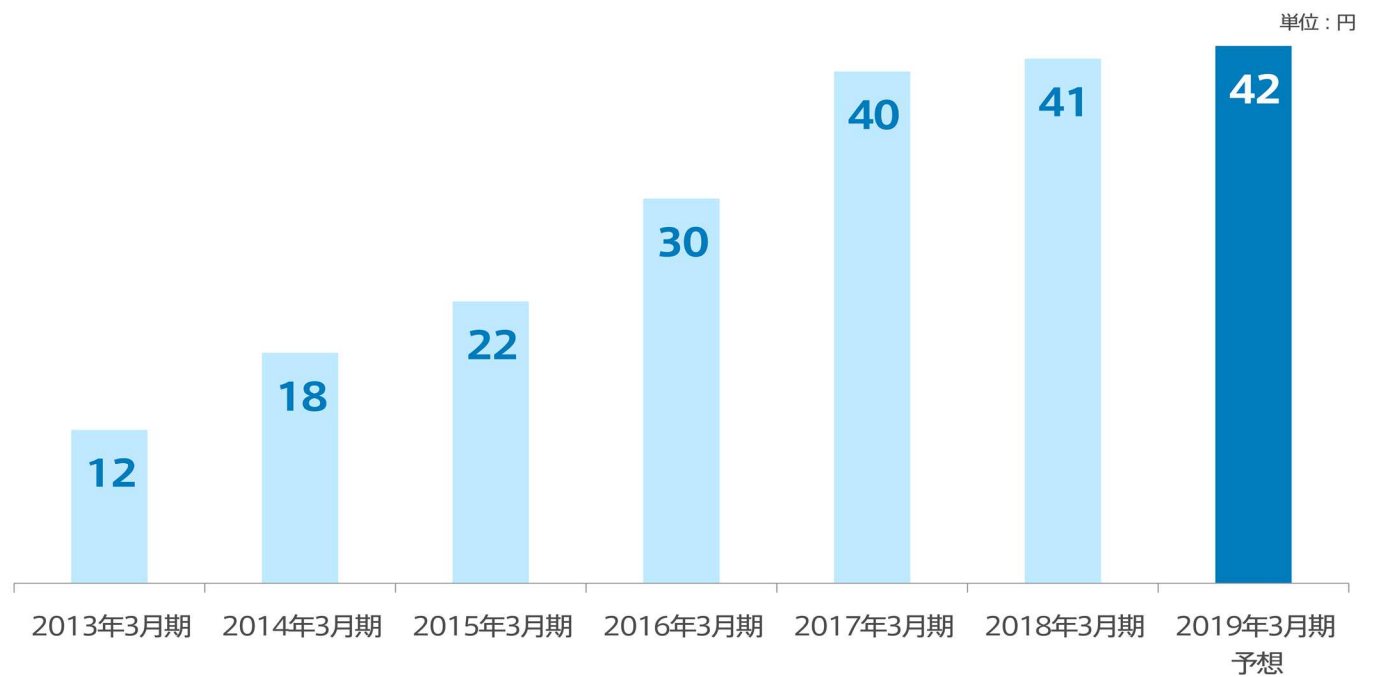
#### 減収理由

- ここ数年受注が続いていた国体開会式が今期は受注できなかった影響が大きい
- この案件に対する当社の評価は高く、この7年間で5回も受注しているが、必ず取れるわけではない
- この一案件で売上が大きく変わる。今期は、受注できなかった分を補てんするシナリオを持ったが、全てをカバーするには至らなかった
- 来期以降のスポーツ分野のイベントの準備が本格化してきたこともあり、そちらに注力することに決めた



© 2018 CERESPO CO., LTD. 22

- 当社の売り上げの基本となる、基本事業とスポーツ事業の合計売上額については今期も前期を上回る
- 売上高はの前期比94%だが、国体等の競争事業を除いた部分は4%ほど伸びている
- 来年度、再来年度には大きなイベントも控えているため、中計Ⅳの最終年度である2020年度には現在予想している数字になる見込み
- 当社では既に計画や準備については来期以降にシフトしている



※2016年10月1日付で2株を1株に併合しているため、各事業年度の期初に併合したものととして算出  
 ※2019年3月期の配当額については、2019年6月に開催予定の定時株主総会に付議される予定

© 2018 CERESPO CO., LTD. 23

- 2019年3月期は1円増配の42円とする計画
- この増配は、これから先の当社の発展に対する、自信と意思を示すメッセージ
- 表面上は減収・減益だが、当社はまちがいなく成長の途上にある
- 配当に対する基本的な考え方は、安定的に配当を続けること



### 3. 中期経営計画Ⅳの実施策

---

## 1. 業績目標

|            |                     |     | 中期経営計画III | 中期経営計画IV |          |          |
|------------|---------------------|-----|-----------|----------|----------|----------|
|            |                     |     | 2018年3月期  | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 2021年3月期 |
| 主要<br>業績指標 | 売上高                 | 百万円 | 12,607    | 12,000   | 14,000   | 16,000   |
|            | 営業利益                | 百万円 | 593       | 410      | 680      | 800      |
|            | 売上高営業利益率            | %   | 4.7       | 3.4      | 4.9      | 5.0      |
|            | 当期純利益               | 百万円 | 379       | 270      | 440      | 500      |
| 収益性        | ROE<br>(自己資本当期利益率)  | %   | 8.0       | 5.0      | 8.0      | 9.5      |
|            | EPS<br>(1株当たり当期純利益) | 円   | 138.35    | 98.39    | 160.33   | 180.00   |

## 2. 株主還元方針

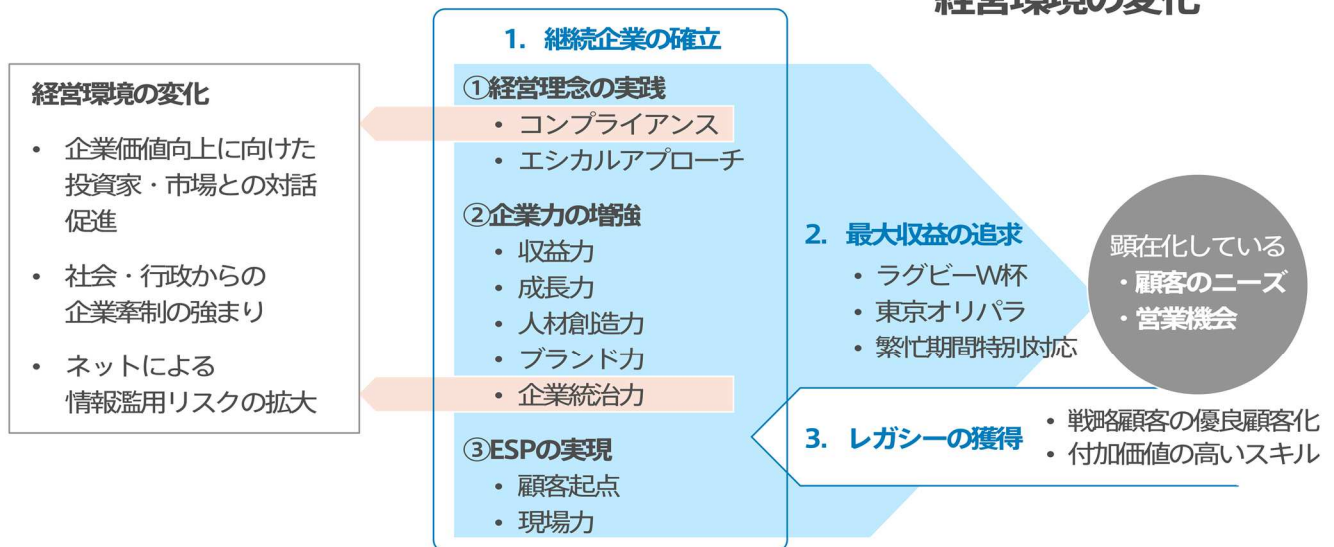
「安定配当」を基本とし、利益成長と共に継続的な増配を目指す。

© 2018 CERESPO CO., LTD. 25

- 中期経営計画は3年刻みで策定してきており、今回が第四次となる
- 2021年3月期が最終年度なので、ちょうどラグビーワールドカップおよびオリンピック・パラリンピックがこの計画の期間に入る
- 扱う案件数、業務量がかなり膨らむことが予想されており、最終年度では売上160億円、営業利益8億円という大きな目標を掲げている

「1. 継続企業の確立」 + 「2. 最大収益の追求」 + 「3. レガシーの獲得」

+  
経営環境の変化



© 2018 CERESPO CO., LTD. 26

- 今回の中計において実現したいことは、大きくまとめると「**継続企業の確立**」「**最大収益の追求**」「**レガシーの獲得**」の3つ

### 継続企業の確立

- 「継続企業」とは、成長性、収益性などを発揮させたかたちで継続する企業
- 継続企業の確立は、株主、顧客、社員など全てのステークホルダーにメリットがある
- 「継続企業」となる上で、満たすべきことは、「①経営理念の実践」「②企業力の増強」「③ESPの実現」がある

#### ①経営理念の実践

- コンプライアンス上の不備をなくすことから始まる
- エシカル・アプローチとは、サステナビリティ、ユニバーサルといった、道徳的な概念を積極的にイベントの中でかたちにすること

#### ②企業力の増強

- 収益力、成長力、人材創造力、ブランド力、企業統治力を増強すること
- 収益力では利益を上げるための様々な施策が計画されている
- 成長力では事業を、基本事業、スポーツ事業、競争事業の3つに分けて施策を実行している



### レガシーの獲得

- スポーツの中央競技団体や大手広告代理店とのパイプを増やし優良顧客を増やすこと
- スポーツの国際大会を通じて、運営等の高いスキルを身に付けること
- 上記を獲得することで、2021年以降の成長につなげることを意味している

NEWS RELEASE

株式会社セレスポ  
170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5  
Tel) 03-5974-1111  
http://www.cerespo.co.jp/

報道各位

2018年10月16日

株式会社セレスポ、公益財団法人日本ハンドボール協会と「オフィシャルスポンサー」契約締結

イベント制作会社の株式会社セレスポ（本社：東京都豊島区、代表取締役社長：稲葉利彦）は、公益財団法人日本ハンドボール協会（以下、JHA）と「オフィシャルスポンサー」契約を締結しました。

当社は、2010年より日本ハンドボールリーグ機構のオフィシャルスポンサーを務めてまいりました。今回の契約を機に、ハンドボールを通じてより一層のスポーツ振興に取り組んでまいります。

■契約概要

期間：2018年10月～2021年3月31日  
内容：・JHA 名称・ロゴ等の使用  
・JHA 公式制作物等への社名およびロゴの掲出  
・JHA 主催試合会場における社名及びロゴ掲出等

■公益財団法人日本ハンドボール協会（JHA）について

日本ハンドボール協会（JHA）は、1938年、日本送球協会としてハンドボールの普及を目的に設立されました。1952年には、国際ハンドボール連盟（IHF）に加盟し世界への第一歩を踏み出し、オリンピックでは、男子が、1972年ミュンヘンでのハンドボール競技の採用から、1988年のソウルまで5大会連続で代表権を獲得（1980年のモスクワは不参加）、女子は、1976年モントリオール（女子の実施は初めて）に参加するなど、アジアのリーダーとしてその役割を果たしながら、世界ハンドボール界の発展に努めております。

■組織概要

|       |                           |     |                          |
|-------|---------------------------|-----|--------------------------|
| 商号    | ：株式会社セレスポ                 | 団体名 | ：公益財団法人日本ハンドボール協会        |
| 本社所在地 | ：170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 | 所在地 | ：160-0003 東京都新宿区西谷本塩14-1 |
| 設立年月日 | ：1977年7月21日               |     | 第2田中ビル7F                 |
| 資本金   | ：13億7,007万円               | 会長  | ：湯永 寛仁                   |
| 代表者   | ：代表取締役社長 稲葉利彦             |     |                          |
| 事業内容  | ：イベント企画、制作、会場設営、運営及び進行ほか  |     |                          |
| 従業員数  | ：385名（平成30年3月31日現在）       |     |                          |

セレスポ



2018年10月、

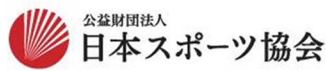
（公財）日本ハンドボール協会とオフィシャルスポンサー契約

スポンサーシップの主な効果

- ・ 協賛先団体との関係強化
- ・ 市場拡大に向けた共創機会の獲得
- ・ スポーツ分野におけるポジション強化
- ・ ブランド力の向上

© 2018 CERESPO CO., LTD. 28

- ・ 今年の10月には、日本ハンドボール協会のオフィシャルスポンサーになった
- ・ 主な効果には「協賛先団体との関係強化」「市場拡大に向けた共創機会の獲得」「スポーツ分野におけるポジション強化」「ブランド力の向上」がある



(公財) 日本スポーツ協会



(公財) 日本陸上競技連盟



(公社) 日本トライアスロン連合



(一社) 日本バレーボールリーグ機構



(一社) パラ陸上競技連盟



(公財) 日本ハンドボールリーグ協会



日本ハンドボールリーグ機構



日本女子ソフトボールリーグ機構



(公社) 日本ボート協会



(公財) 横浜市体育協会

- 2018年12月現在のスポンサーシップの相手先は、10団体
- これらの競技団体とはパイプを太くしていく
- 新たな団体と望ましいかたちで協賛関係を築けるようならば、積極的に増やしていく

## スポーツ産業

- 政府の成長戦略である「日本再興戦略2016」において、スポーツの成長産業化を実現するために、さまざまな施策が進められている
- スポーツ産業の市場規模は5.5兆円（2015年）から15兆円（2025年）に拡大
- そういう背景の中で、これからの2年で獲得したレガシーを活用していく

- 2019年3月期は減収減益だが、ベースとなる基本事業・スポーツ事業の売上は堅調に推移
- 配当額は1円増配の42円（6年連続増配）
- 2019年度、2020年度の準備状況はスポーツ事業を中心に川原周

## 参考情報

---



| 単位：百万円<br>下段は対売上高比 | 2017年3月期       | 2018年3月期                     | 増減額 | 増減率  |
|--------------------|----------------|------------------------------|-----|------|
| 売上高                | 12,272         | <b>12,607</b>                | 334 | 2.7% |
| 売上原価               | 8,501<br>69.2% | <b>8,663</b><br><b>69.2%</b> | 162 | 1.9% |
| 売上総利益              | 3,770<br>30.7% | <b>3,943</b><br><b>30.7%</b> | 172 | 4.6% |
| 販売費及び一般管理費         | 3,195<br>26.0% | <b>3,349</b><br><b>26.0%</b> | 153 | 4.8% |
| 営業利益               | 575<br>4.7%    | <b>593</b><br><b>4.7%</b>    | 18  | 3.2% |
| 経常利益               | 592<br>4.8%    | <b>608</b><br><b>4.8%</b>    | 15  | 2.7% |
| 当期損益               | 378<br>3.0%    | <b>379</b><br><b>3.0%</b>    | 0   | 0.2% |

| 単位：百万円<br>下段は対売上高比 | 2017年3月期       | 2018年3月期                     | 増減額  | 増減率   |
|--------------------|----------------|------------------------------|------|-------|
| 売上高                | 12,272         | <b>12,607</b>                | 334  | 2.7%  |
| セレモニー              | 3,519<br>28.6% | <b>3,697</b><br><b>29.3%</b> | 178  | 5.1%  |
| スポーツ               | 3,108<br>25.3% | <b>3,096</b><br><b>24.6%</b> | -11  | -0.4% |
| プロモーション            | 2,001<br>16.3% | <b>2,171</b><br><b>17.2%</b> | 169  | 8.5%  |
| フェスティバル            | 2,299<br>18.7% | <b>2,071</b><br><b>16.4%</b> | -227 | -9.9% |
| コンベンション            | 911<br>7.4%    | <b>1,029</b><br><b>8.2%</b>  | 117  | 12.9% |
| その他事業              | 432<br>3.5%    | <b>540</b><br><b>4.3%</b>    | 107  | 24.9% |

| 単位：百万円         | 2017年3月期     | 2018年3月期     | 増減額        | 増減率           |
|----------------|--------------|--------------|------------|---------------|
| <b>資産の部</b>    |              |              |            |               |
| 流動資産           | 2,614        | 3,256        | 642        | 24.6%         |
| 固定資産           | 4,503        | 4,501        | -2         | -0.0%         |
| <b>資産合計</b>    | <b>7,117</b> | <b>7,758</b> | <b>640</b> | <b>8.9%</b>   |
| <b>負債の部</b>    |              |              |            |               |
| 流動負債           | 2,282        | 2,618        | 336        | 14.7%         |
| 固定負債           | 235          | 239          | 3          | 1.3%          |
| <b>負債合計</b>    | <b>2,517</b> | <b>2,857</b> | <b>339</b> | <b>13.5%</b>  |
| <b>純資産の部</b>   |              |              |            |               |
| 株主資本           | 4,620        | 4,890        | 269        | 5.8%          |
| <b>純資産合計</b>   | <b>4,599</b> | <b>4,900</b> | <b>301</b> | <b>6.5%</b>   |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>7,117</b> | <b>7,758</b> | <b>640</b> | <b>9.0%</b>   |
| <b>自己資本比率</b>  | <b>64.6%</b> | <b>63.2%</b> |            | <b>-1.4pt</b> |

|        |                    | 中期経営計画II |        |        | 中期経営計画III |        |        |        |
|--------|--------------------|----------|--------|--------|-----------|--------|--------|--------|
|        |                    | 2013.3   | 2014.3 | 2015.3 | 2016.3    | 2017.3 | 2018.3 |        |
| 主要業績指標 | 売上高                | 百万円      | 9,197  | 9,804  | 10,361    | 10,742 | 12,272 | 12,607 |
|        | 営業利益               | 百万円      | 239    | 266    | 381       | 422    | 575    | 593    |
|        | 売上高営業利益率           | %        | 2.6    | 3.6    | 3.7       | 3.9    | 4.7    | 4.7    |
|        | 当期純利益              | 百万円      | 125    | 201    | 254       | 271    | 378    | 379    |
| 株価指標   | 株価純資産倍率 (PBR)      |          | 0.2    | 0.3    | 0.4       | 0.3    | 0.8    | 0.7    |
|        | 株価収益率 (PER)        |          | 9.1    | 8.1    | 9.5       | 6.2    | 13.7   | 12.5   |
| 収益性    | 総資産当期利益率 (ROA)     | %        | 1.9    | 3.1    | 4.0       | 4.1    | 5.5    | 5.1    |
|        | 自己資本当期利益率 (ROE)    | %        | 3.4    | 5.3    | 6.3       | 6.5    | 8.5    | 8.0    |
|        | 1株当たり当期純利益 (EPS) ※ | 円        | 43.92  | 73.62  | 92.68     | 99.17  | 138.02 | 138.35 |
| 生産性    | 社員1人あたり売上高         | 千円       | 21,900 | 28,419 | 29,605    | 29,676 | 32,467 | 33,981 |
|        | 社員1人あたり営業利益        | 千円       | 688    | 1,011  | 1,091     | 1,167  | 1,522  | 1,598  |
| 利益還元方針 | 年間配当 / 株※          | 円        | 12     | 18     | 22        | 30     | 40     | 41     |
|        | 配当性向               | %        | 26.3   | 24.4   | 23.7      | 30.3   | 28.9   | 29.6   |

※2016年10月1日付で2株を1株に併合しているため、各事業年度の期初に併合したものととして算出

© 2018 CERESPO CO., LTD.

## 株式の状況

|         |             |
|---------|-------------|
| 発行可能株式数 | 11,000,000株 |
| 発行済み株式数 | 2,851,750株  |
| 株主数     | 1,315名      |

## 株主メモ

|                |              |
|----------------|--------------|
| 証券コード          | 9625         |
| 1単元の株式数        | 100株         |
| 事業年度           | 4月1日～翌年3月31日 |
| 定時株主総会         | 毎年6月中        |
| 配当金受領株主<br>確定日 | 期末配当金3月31日   |

## 大株主の状況

| 株主名                           | 持株数 (株) | 持株比率   |
|-------------------------------|---------|--------|
| 株式会社スマイル                      | 550,000 | 20.00% |
| セレスポ従業員持株会                    | 278,250 | 10.12% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社<br>(信託口) | 262,400 | 9.54%  |
| 三木征一郎                         | 77,862  | 2.83%  |
| 東海東京証券株式会社                    | 67,500  | 2.45%  |
| 稲葉利彦                          | 54,472  | 1.98%  |
| 衣笠純                           | 47,300  | 1.72%  |
| 北原美子                          | 47,300  | 1.72%  |
| 株式会社SBI証券                     | 29,400  | 1.07%  |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行                 | 27,500  | 1.00%  |

※当社は、自己株式を101,445株保有しておりますが、上記株主からは除外しております。  
 ※持ち株比率は自己株式を控除して算出しております。

**株式会社セレスポ**

170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5

TEL : 03-5974-1111

FAX : 03-5394-7651

URL : <http://www.cerespo.co.jp/>

担当部署 : 経営企画部

連絡先 : [ir@cerespo.co.jp](mailto:ir@cerespo.co.jp)